

渡 邊 昶 議員



市長は2期目をどう進めて  
いこうと考えているか

問

市長の1期目4年間の総括と、2期目に市民の負託を受けた場合【1】の展望、見通しを聞く。



市長は1月16日、無投票により再選している。

- (1) 1期4年をどう感じたか。
- (2) 2期目をどう進めていこうと考えているか。

市民との協働を進めたい

答 市長

(1) わたしは、市民と協働のまちづくり、公平で透明な市政の実現、税の節約、有効利用を基本的な姿勢としてきた。

職員に対しても「市役所とは、市民に役立つ所」でな

ければならない」と、意識改革をしてきた。

そうした中で、一定の成果を上げることができたと自負している。

(2) 21年に発表した総合計画はスタートしたばかりで、次の4年間は大変重要な時期である。行財政改革を進め、市民との協働のまちづくりをさらに進めていきたい。

しかし、財政は大変厳しい状況である。すべて行政がやるという意識を少し改めてもらい、自助、共助の精神で(市民にも)協力してほしい。

西部臨海工業地帯を中心とした企業誘致、都市計画における土地の有効利用をかんがみ、自主財源確保に努め、市民の負託に応えていきたい。

市の農業を守る  
独自施策は

問

環太平洋経済連携協定【以下「TPP」・関連記事3・11面】で一番問題が出るのは、農業と言っても過言ではない。

市の農業を守っていくには、23年度以降に市独自施策を加えるか、市長に最善の努力を期待したいがどうか。

排水賦課金の軽減を考えたい

答 市長

市の農地を守っていくため、減反の奨励に10a当たり3千円、集団転作に10aで7千円を市単独補助している。財政が厳しいときだが、この制度は23年度も継続していきたい。

また土地改良区に対する経常賦課金が、農業者の大



きな負担になってきている。用水は(農家に)受益者負担を願いたい。排水は(農家以外も排水する)生活雑排水もある。20%なり25%という中で、農家(負担)の排水賦課金【II関連記事10面】軽減を考えていきたい。

TPPの問題は厳しい状況だと思うが、国際的な潮流は理解しなければならぬ。農業を守る観点で注視していきたい。



市内6カ所にある排水機は、鍋田・十四山土地改良区と孫宝排水土地改良区が管理している。

その排水管理に伴う費用として、賦課金を区域農家が負担している。